

サービス事業者などが来春開校



来春開校する「優和福祉専門学校」の完成予想図

介護福祉士養成へ専門学校

昭和「現場と教育を直結」

介護福祉士を養成する新たな専門学校「優和福祉専門学校」(学校法人・優和学院運営、海野一幸理事長)が来年度、昭和町内に開校する。二十一日に学校法人と専門学校設置が認可された。介護サービス事業者の「やさしい手申府」などが中心となり設立。「学校と現場を直結させた教育が可能となる」(県私学文書課)のが特徴という。介護福祉士養成機能を持つ学校としては県内で四校目。

二年制の男女共学で、一学年定員は四十人。介護福祉科の単科で、リハビリテーション論や形態別介護技術などの専門科目を用意し、授業時間は国の基準(千六百五十時間)を超過千八百四時間を設定。二年間の授業で介護福祉士の国家資格が取得できる。

昭和町築地新居に開設し、十二月完成予定の校舎は鉄骨造り二階建て、延べ床面積は千三百九十五平方メートル。普通教室のほか研修室や介護実習室などを備える。提携する三十力以上の介護施設での実習も可能という。付帯事業として既に現場で働く介護職員らに対

象に精神障害者ホームヘルパーや福祉用具専門相談員講習会なども開く。「生徒が現場を知る先輩と交流できる機会も設ける」(同学院)としている。県内の介護福祉士養成

学校は、これまで四年制の県立大(福祉コミュニティ学科)、身延山大(介護福祉コース)と、二年制の帝京医療福祉専門学校(介護福祉科)の三校があり、専門学校では二

校目となる。

この日は県庁で、山本栄彦知事が海野理事長に認可書を交付。海野理事長は「山梨の福祉に貢献できる人材づくりに努めたい」と話した。

山梨日日新聞

平成18年11月22日(水)掲載